

報告第14号

専決処分したものの報告について

市長に委任する専決処分事項の指定について（平成28年12月27日議決）の規定により、下記の事項について別紙のとおり専決処分したから、地方自治法（昭和22年法律第67号）第180条第2項の規定により報告する。

平成30年6月14日提出

豊岡市長 中 貝 宗 治

記

1 損害賠償の額を定めることについて

専決第11号

損害賠償の額を定めることについて

損害賠償の額の決定について、市長に委任する専決処分事項の指定について（平成28年12月27日議決）の規定により、下記のとおり専決処分する。

平成30年6月7日専決

豊岡市長 中 貝 宗 治

記

事故区分及び 事故発生年月日	交通事故 平成30年5月15日（火）午後6時30分頃
事故発生場所	兵庫県豊岡市正法寺592番1 市道正法寺公園線
相手方の 住所氏名	■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■ ■■■■■■■■■■
損害賠償額	金142,412円也
事故の概要	建設課職員が現場から帰庁のため公用車を後退しようとしたところ、運転操作を誤り前進し、前方に停車していた相手方車両に接触し損傷させたもの。 (過失割合 豊岡市10割)

報告第15号

株式会社日高振興公社第24期の決算及び第25期の事業計画に関する
書類について

地方自治法（昭和22年法律第67号）第243条の3第2項の規定により、別紙のとおり報告する。

平成30年6月14日提出

豊岡市長 中 貝 宗 治

決算等の状況の報告

株式会社 日高振興公社

株式会社 日高振興公社 第24期 事業報告

1 事業の経過および成果

当事業年度における国内経済は、輸出主導の景気拡大が続き、デフレ脱却に向けて緩やかながらも着実に前進しています。企業業績の改善が続き賃金上昇の動きも出始めていることから、デフレ状態に後戻りしない為に不可欠な自立的回復の兆しが見られた年と言えます。今後も輸出は景気好調なアジア向けを中心に拡大基調を維持、設備投資は循環的にピークアウトするが、個人消費は所得増と消費者マインド改善により回復に向かい平成30年度も徐々に景気拡大が続く見通しです。

但馬地域の情勢は、平成29年3月25日「日高神鍋高原IC」が開通し、道の駅「神鍋高原」まで約15分というアクセスとなり、交通量は増え、僅かながら集客に繋がりました。また、9月21日、道の駅「山陰海岸ジオパーク浜坂の郷」、11月26日、「新温泉浜坂IC」が開通するなど、交通網の拡張による利便性の向上が顕著に見られました。

また、神鍋スキー場の入山者は昨年を上回り、13万4千人（2万1千人増）となりましたが、平成26年度（16万1千人）以降、暖冬による雪不足やスキー人口の減少、新設スキー場（峰山高原リゾート）のオープン等が影響し、利用者は減少傾向にあります。

このような状況の下、当社は「地域と共に創る個性ある道の駅」を目指し、様々なイベントの実施や神鍋高原のおみやげ開発などに取り組んで参りました。

また、従業員の職務能力向上を図るため、兵庫県道の駅巡り、他府県の事業所に赴き、コンサルタントの指導や地元企業の連携により、イベント集客・ランチビュッフェの演出・店舗展開等、個性ある道の駅作りのための研修を行いました。

社員会議では「道の駅」の①部門ごとの経費削減②新規イベント計画③商品開発④設備投資などについて、話し合いや勉強会を適時行いました。このような取り組みを行い、道の駅「神鍋高原」の来店客数は144,262人（前年度：136,497人）となり、7,765人増加しました。

一方、「神鍋温泉ゆとろぎ」の入館者数は78,109人（前年度：73,759人）と、4,350人増加する結果となりました。

結果、当事業年度における業績は、

売上高	212,841千円	（前年度比：104%	7,209千円増）
営業利益	2,470千円	（前年度比：—%	3,005千円増）
経常利益	5,306千円	（前年度比：275%	3,380千円増）
当期純利益	5,094千円	（前年度比：297%	3,379千円増）

参考：前年度当期純利益1,715千円

となりました。

今年度は「日高神鍋高原IC」開通による交通量の増加に伴い、売店・飲食部門の客数増加による増益に影響しました。ただし、神鍋温泉ゆとろぎは燃料費の見直し、営業形態など、試行錯誤しましたが、収支改善は見られるものの、赤字脱却には繋がりませんでした。

なお、部門ごとの活動状況・売上は下記のとおりです。

(1) 道の駅「神鍋高原」

① 売店部門

女性向けに美容や癒しが体験できるビューティーイベントを行ったり、子供向けにキャンドル作り、切り絵教室など、新しい客層を取り入れるための取組を行いました。地域連携として地元企業と共同開発した、夏は神鍋高原スイカを使ったスイカジュラート、秋には神鍋高原リンゴを使ったリンゴジュラートを商品開発しました。販売量は198個。売上金額79千円と僅かですが、次年度へ繋がる取組となりました。また、前年同様、第9回神鍋高原キャベツまつりを開催し、神鍋高原キャベツを使用した商品開発に取り組み、キャベツカレーを販売しました。販売数量は1,029個、売上金額566千円となりました。さらにキャベツ関連商品も好評で、ほんまもん神鍋も安定して売れています。

○キャベツチップ 年間販売数：6,625個 売上金額：3,024千円

○キャベツキムチ 年間販売数：309個 売上金額：77千円

○ほんまもん神鍋 年間販売数：12,669袋 売上金額：8,235千円

“道の駅「神鍋高原」でしか購入できない商品”と位置付け、他店舗との間の戦略商品としてPB化を図りました。

② 飲食部門

「全但バス神鍋線利用促進イベント」を開催し、「神鍋フェア」と称した鍋イベントでは、飲食部門で初の試みとなる、但馬管内の食酢で有名な佃トキワと企業連携し、オリジナル鍋コース料理の提供を行いました。更に、地域連携として、豊岡市商工会青年部が企画している「ひだか松葉」を月替わりランチ、イベント料理に使用し、活動普及を図りました。

平日の集客に向け、昨年度から実施した地元食材を使用した月替わりランチを定番化、販売数量2,002食、売上金額1,644千円となり、定食の中では一番人気の料理となりました。また、次年度に向け、コンサルタントを入れ、平日の集客に繋がるメニュー開発を行っています。

土、日、祝日のランチビュッフェでは、客数15,327名、売上金額15,992千円となり、前年より客数1,539名、売上金額908千円増加しました。

また、月々清掃日や定休日を設け、衛生面、労働面に関して効率的な運営に努め、経費削減に繋がりました。

③ 神鍋温泉ゆとろぎ部門

地域連携として4月は但東チューリップまつりのチューリップ湯、10月は神鍋産のりんご湯など、見た目も香りも楽しんでいただく季節湯を毎月2回行いま

した。3月は15枚綴りの特別回数券を販売し、リピーターに向けた購入促進サービスを行いました。平成28年度からフォレストアドベンチャー奥神鍋（514名利用、前年度：252名）、パラグライダースクール（114名利用、前年度：18名）と提携し、利用者促進を行いました。また、長年、協力していただいております、スキーリフト券利用者の割引サービス（11,380名利用、前年度：8,917名）は非常に効果がありました。

また、定期的に臨時休館日を設け、清掃や機械メンテナンスを行い、お客様に気持ち良く利用していただけるように、衛生面・設備面での管理を強化しました。

2 事業実績

売上高の推移

単位：千円

区 分	第 22 期	第 23 期	第 24 期
売店部門	141,525	120,993	125,684
飲食部門	42,041	40,755	41,477
温泉部門	39,544	39,808	41,654
市受託料	4,379	4,077	4,026
合 計	227,489	205,633	212,841

営業成績、財産状況の推移

単位：千円

区 分	第 22 期	第 23 期	第 24 期
経常利益	3,228	1,926	5,306
当期純利益	3,018	1,715	5,094
総資産	31,722	32,137	39,231
純資産	14,489	16,204	21,299

3 会社の概要

(1) 資本金

資本金	36,000,000 円
-----	--------------

(2) 株式の状況

発行済株式総数	720 株
うち豊岡市保有分	400 株

(3) 役員の状況

役職名	役員名
代表取締役	笠原 泰 藏
専務取締役	久 田 喜三郎
取 締 役	小田根 厚 芳
取 締 役	和 藤 久 喜
取 締 役	岡 森 且 哉
取 締 役	原 清 美
監 査 役	小 林 辰 美
監 査 役	廣 田 勝 彦

(4) 社員（従業員）の状況

区分	人数	構成
社 員	5	男性 3 人、女性 2 人
パート	15	男性 2 人、女性 13 人
計	20	男性 5 人、女性 15 人

決 算 報 告 書

第 2 4 期

自 平成 2 9 年 4 月 1 日

至 平成 3 0 年 3 月 3 1 日

株式会社 日高振興公社

豊岡市日高町栗栖野 5 9 番地 1 3

貸借対照表

株式会社 日高振興公社

平成30年3月31日現在

科 目	金 額	科 目	金 額
(資産の部)	円	(負債の部)	円
【流動資産】	【33,290,037】	【流動負債】	【17,932,295】
現金及び預金	28,163,495	買掛金	2,258,592
売掛金	421,912	受託未払金	3,670,511
商 品	1,007,018	未 払 金	8,769,500
原 材 料	440,189	預 り 金	413,292
貯 蔵 品	548,576	預 り 敷 金	150,000
未 収 入 金	2,687,018	法人税等充当金	213,200
仮 払 金	21,829	未 払 消 費 税	2,457,200
【固定資産】	【5,940,822】		
(有形固定資産)	(5,748,297)		
建 物	4,071,943	負債合計	17,932,295
建物付属設備	346,387	(純資産の部)	円
車両運搬具	2	【株主資本】	【21,298,564】
工具器具備品	935,275	[資本金]	[36,000,000]
一括償却資産	394,690	[利益剰余金]	[△14,701,436]
(無形固定資産)	(189,525)	利益準備金	9,000,000
ソフトウェア	189,525	(その他利益剰余金)	(△23,701,436)
(投資その他資産)	(3,000)	繰越利益剰余金	△23,701,436
出 資 金	3,000	(うち当期純利益)	(5,094,437)
		純資産合計	21,298,564
資産合計	39,230,859	負債・純資産合計	39,230,859

損 益 計 算 書

株式会社 日高振興公社

自 平成 29 年 4 月 1 日
至 平成 30 年 3 月 31 日

科 目	金	額
【売上高】		円
売店売上	125,684,279	
市事業委託料等	4,025,638	
レストラン売上	41,477,375	
温泉売上	41,653,683	212,840,975
【売上原価】		
期首棚卸高	1,361,965	
仕入高	89,273,185	
材料費	17,842,975	
合計	108,478,125	
期末棚卸高	1,447,207	107,030,918
売上総利益		105,810,057
【販売費及び一般管理費】		103,339,588
営業利益		2,470,469
【営業外収益】		
受取利息	794	
雑収入	2,855,026	2,855,820
【営業外費用】		
支払利息・割引料	5,726	
雑損失	15,010	20,736
経常利益		5,305,553
税引前当期純利益		5,305,553
法人税等充当額		211,116
当期純利益		5,094,437

販売費及び一般管理費内訳書

株式会社 日高振興公社

自 平成29年4月 1日
至 平成30年3月31日

科 目	金 額	円
役員報酬	4,313,800	
給料手当	33,483,919	
福利厚生費	6,519,206	
雑給	8,041,372	
シルバ-委託費	2,546,222	
広告宣伝費	2,772,823	
運賃	197,415	
燃料費	6,290,200	
衛生費	7,162,219	
一括資産償却費	361,856	
水道光熱費	13,578,989	
会議費	82,558	
事務費	1,541,946	
消耗品費	4,029,969	
地代家賃	38,100	
支払保険料	584,930	
修繕費	259,720	
租税公課	4,640,800	
減価償却費	1,236,869	
接待交際費	417,444	
旅費交通費	115,860	
通信費	448,076	
支払手数料	2,520,054	
貸借料	1,671,720	
諸会費	379,600	
購読費	23,933	
雑費	79,988	
合 計		103,339,588

株主資本等変動計算書

自 平成29年4月 1日
至 平成30年3月31日
(単位 円)

株式会社 日高振興公社

	株主資本							純資産合計
	資本金	資本剰余金		利益剰余金		自己株式	株主資本合計	
		資本準備金	その他資本剰余金	利益準備金	その他利益剰余金			
当期首残高	36,000,000			9,000,000	△ 28,795,873		16,204,127	16,204,127
当期変動額								
剰余金の内訳科目間の振替								
剰余金の配当								
当期純利益					5,094,437		5,094,437	5,094,437
当期変動額合計					5,094,437		5,094,437	5,094,437
当期末残高	36,000,000			9,000,000	△ 23,701,436		21,298,564	21,298,564

	利益剰余金の内訳				利益剰余金合計
	利益準備金	退職給付積立金	別途積立金	繰越利益剰余金	
当期首残高	9,000,000			△ 28,795,873	△ 19,795,873
当期変動額					
剰余金の内訳科目間の振替					
剰余金の配当					
当期純利益				5,094,437	5,094,437
当期変動額合計				5,094,437	5,094,437
当期末残高	9,000,000			△ 23,701,436	△ 14,701,436

個別注記表

株式会社 日高振興公社

自 平成 29 年 4 月 1 日
至 平成 30 年 3 月 31 日

この計算書類は、「中小企業の会計に関する基本要領」によって作成している。

1 重要な会計方針に係る事項に関する注記

(1) 資産の評価基準及び評価方法

棚卸資産の評価基準及び評価方法

商品・原材料・貯蔵品 …… 最終仕入原価法による原価法

(2) 固定資産の減価償却の方法

有形固定資産 …… 平成 10 年 4 月 1 日以後に取得した建物及び平成 28 年
4 月 1 日以後に取得した建物附属設備・構築物は定額
法、それ以外は定率法

無形固定資産 …… 定額法

(3) 収益及び費用の計上基準

原則として収益は実現主義により、費用は発生主義により計上している。

(4) その他計算書類の作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理 …… 税込方式で計上している。

2 貸借対照表等に関する注記

固定資産から直接控除した減価償却累計額の合計額 …… 35,464,790 円

3 株主資本等変動計算書に関する注記

当事業年度末日における発行済株式の数 …… 720 株

当事業年度末日における自己株式の数 …… 0 株

4 一株当たり情報に関する注記 (平成 30 年 3 月 31 日現在)

一株当たりの純資産額 …… 29,581 円 33 銭

一株当たりの当期純利益 …… 7,075 円 60 銭

監 査 報 告

私達監査役は、平成29年4月1日から平成30年3月31日までの第24期事業年度の貸借対照表、損益計算書、株主資本変動計算書、個別注記表、事業報告および付属明細書を監査しました結果、適法かつ正確であることを認めます。

平成30年5月21日

監 査 役 小 林 辰 美

監 査 役 廣 田 勝 彦

株式会社 日高振興公社 第25期（次期）事業計画及び予定損益計画

事業計画

2018年度も景気回復は続き、オリンピックを控えたインフラ建設などの需要の盛り上がりや首都圏での再開発案件の増加などが景気を押し上げます。設備投資は企業業績拡大を背景に人手不足への対応のための投資や研究開発投資の増加が続き、就業者の増加や賃金の緩やかな上昇など雇用・所得情勢の改善が続く中で、個人消費も底堅さを維持する見込みです。

また、「道の駅」は、2018年4月現在で昨年から28駅増え、登録数1,145駅になりましたが、一方で、経営担当者の高齢化による人材不足が深刻です。体験イベント等を立ち上げる総合戦略プランナー、地域の方々との豊かなコミュニケーションのとれる人材など、今後はこうした人材育成が急務となってきます。

当社については、但馬地域の企業・団体連携を活かして地域交流促進や地域資源の見直しを行い、地域振興・地域活性化の為に事業を展開します。

売店部門は、但馬のスイーツを集めた「第1回かんなベスイーツベール」を開催し、神鍋高原キャベツ・スイカを使用したPB商品の開発を行います。

飲食部門は、7年目となる神鍋線200円バスの利用促進を兼ねた「神鍋ビアナイト」を開催し、平日の利用促進の為に、地元食材を使用した「道の駅神鍋高原」ならではの新品開発を行います。

温泉部門は、赤字脱却の為に、燃料費や水道光熱費などの一般管理費等を見直します。また、ろ過設備、サウナ、ボイラーなど経年劣化による破損個所の修繕を行います。

情報発信に関しては、引き続き「神鍋ほっこり通信」を毎月発行するとともに、フェイスブックなどSNSを駆使する等、多様なチャンネルを利用します。スパイスなど地元情報誌や関西ウォーカーなど旅行紙への掲載のほか、TV・新聞各社へも積極的に情報を提供します。

神鍋高原では、6月の兵庫神鍋高原マラソン全国大会や7月の神鍋火山まつりなど大きなイベントが計画されています。夏季のスポーツ大会や冬季のスキーの他に、熱気球体験やグランピングなど、非日常体験を楽しめる新しいアクティビティも徐々に増えています。当社でも、地域と共に創る個性ある道の駅を目指し、話題性に富んだ事業を展開して地域の賑わいを創り出せるよう取り組みます。

予定損益計画

予定損益計算書

自 平成30年4月 1日

株式会社 日高振興公社

至 平成31年3月31日

科 目	金 額	円
(営業損益の部)		
【売上高】		
売 上	219,600,000	
受 託 料 等	4,400,000	
		224,400,000
【売上原価】		
期 首 棚 卸 高	1,400,000	
材 料 費	19,000,000	
仕 入 高	91,400,000	
合 計	111,800,000	
期 末 棚 卸 高	1,400,000	110,400,000
売 上 総 利 益		114,000,000
【販売及び一般管理費】		107,320,000
営 業 利 益		6,680,000
(営業外損益の部)		
【営業外収益】		
受 取 利 息	1,000	
雑 収 入	349,000	350,000
【営業外費用】		
支 払 利 息 等	20,000	
雑 損 失	10,000	30,000
経 常 利 益		7,000,000

予定販売費及び一般管理費内訳書

自 平成30年4月 1日

株式会社 日高振興公社

至 平成31年3月31日

科 目	金 額	円
役員報酬	4,300,000	
給料手当	34,500,000	
退職給与引当金戻入	0	
福利厚生費	6,700,000	
雑給	8,500,000	
シルバ-委託費	2,700,000	
広告宣伝費	3,000,000	
運賃	50,000	
燃料費	6,900,000	
衛生費	7,200,000	
水道光熱費	13,700,000	
会議費	100,000	
事務費	1,500,000	
消耗品費	4,000,000	
地代家賃	40,000	
支払保険料	600,000	
修繕費	1,000,000	
租税公課	4,650,000	
減価償却費	1,200,000	
接待交際費	350,000	
旅費交通費	150,000	
通信費	450,000	
支払手数料	2,500,000	
貸借料	1,700,000	
諸会費	400,000	
購読費	30,000	
雑費	100,000	
備品	1,000,000	
合 計		107,320,000

報告第16号

株式会社シルク温泉やまびこ第14期の決算及び第15期の事業計画
に関する書類について

地方自治法（昭和22年法律第67号）第243条の3第2項の規定により、別紙のとおり報告する。

平成30年6月14日提出

豊岡市長 中 貝 宗 治

決算等の状況の報告

株式会社 シルク温泉やまびこ

報告承認事項

第14期事業報告及び決算報告

1. 事業報告

9月に予定しておりました濾過器改修工事が2月に延び、メンテナンス料、電気使用料の削減が予定通りできなくなりましたが、広告宣伝費、消耗品費、衛生費の経費削減が順調に推移できた為、11月末には1,039千円の経常利益を残す事ができました。しかしながら年に2回、17日間の温泉休業により約4,300人の方の入浴の受入れができず、また12月からの灯油の高騰、温泉機械の故障による上下水道使用量増、その水道光熱費増を止めるべく予定外の修理費用も計上した為、予算達成が困難な結果となりました。

全施設の利用者数は、158,524人 前期比 97.6% 総売上高 349,856千円、前期比 97.0% となりました。

各部門の利用者数は、宿泊、休憩 18,401人 前期比 103.6% 温泉 138,213人 前期比 97.0%、自然の郷では1,910人 前期比 89.3%となりました。

次に部門別売上高が、宿泊 199,492千円、前期比 107.7%、温泉 73,297千円、前期比 91.8%、売店 51,183千円、前期比 100.6%、自然の郷 7,413千円、前期比 103.6%となりました。

目標の予算達成を果たすべく、2月の温泉濾過器改修時期にも、温泉以外の営業に力を入れ、宿泊のお客様に近隣の温泉施設への送迎や温泉回数券の特別販売をしてまいりました。また7月から、安心安全な食事提供を目指し、食堂の外部委託をさせていただき、季節感のある新メニューや提供時間の短縮が可能になり、素泊まりのビジネス客をはじめ、研修会の昼食、夕食、温泉に来館いただいたお客様に、より一層喜んでいただける施設といたしました。

販売管理費においては、人件費はもとより、前述の通りあらゆる経費の見直しなど行った結果、当初予算より18,662千円好転しました。しかし灯油のみを見ても当期灯油使用量を前年の単価で算出しますと、差額が5,151千円の増となり(前期42.7円～64.6円、今期58.0円～77.0円)全体で厳しい状況となりました。

残念ながら結果として営業利益は△8,913千円、営業外収益 5,845千円となり、今期経常利益は△3,067千円、税引き後の当期純利益は △3,280千円でした。

来期は役員、社員一丸となり温泉の客数増、お昼の会食会の増に取り組んでまいりますので、株主様を始め関係者皆様のご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

2 事業実績

売上高の推移

(単位：千円)

区 分	第12期	第13期	第14期
宿泊部門	177,432	185,224	199,492
売店部門	63,866	50,850	51,183
食堂部門	27,351	26,973	7,843
温泉部門	87,656	79,760	73,297
自然の郷部門	7,842	7,153	7,413
フィールドゴルフ部門	548	378	237
業務委託部門	7,504	6,542	6,584
自販機売上	3,439	3,527	3,807
合 計	375,638	360,405	349,856

営業成績、財産状況の推移

(単位：千円)

区 分	第12期	第13期	第14期
営業利益	7,101	△10,629	△8,913
当期純利益	6,886	△4,269	△3,280
総 資 産	94,852	91,872	88,162
純 資 産	75,735	71,466	68,186

3 会社の概要

(1) 資本金

資本金	50,000,000 円
-----	--------------

(2) 株式の状況

発行済株式総数	1,000 株
うち豊岡市保有分	510 株

(3) 役員の状況

役 職 名	役 員 名
代表取締役	奥田清喜
取 締 役	植田安雄
取 締 役	森友敏則
取 締 役	永井辰正
取 締 役	福田 茂
取 締 役	岸本直幸
監 査 役	小林辰美
監 査 役	柴田誠一

(4) 社員（従業員）の状況

区 分	人 数	構 成
社 員	18	男性 11 人、女性 7 人
パート・嘱託	6	男性 2 人、女性 4 人
計	24	男性 13 人、女性 11 人

決 算 報 告 書

第 14 期

自 平成29年 4月 1日

至 平成30年 3月31日

株式会社 シルク温泉やまびこ

兵庫県豊岡市但東町正法寺165

貸 借 対 照 表

(単位：円)

株式会社 シルク温泉やまびこ

平成30年 3月31日現在

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
【流動資産】	【 83,395,563】	【流動負債】	【 19,976,441】
現金及び預金	71,626,699	買掛金	7,941,330
売掛金	5,933,100	未払金	9,238,109
商品券	6,500	前受金	82,000
商品	1,334,936	預り金	1,123,302
貯蔵品	1,095,391	法人税等充当金	211,500
立替金	8,580	未払消費税	1,380,200
未収入金	3,327,357	負債の部計	19,976,441
前払費用	63,000		
【固定資産】	【 4,766,511】		
(有形固定資産)	(3,731,291)		
建物	1,178,492		
建物付属設備	1,035,127		
構築物	43,496		
車両運搬具	6		
工具器具備品	1,401,090		
一括償却資産	73,080		
(無形固定資産)	(375,220)		
敷金	126,000		
ソフトウェア	249,220		
(投資その他の資産)	(660,000)		
出資金	660,000		
		純資産の部	
		【株主資本】	【 68,185,633】
		[資本金]	[50,000,000]
		[利益剰余金]	[18,185,633]
		利益準備金	12,500,000
		(その他利益剰余金)	(5,685,633)
		別途積立金	8,000,000
		繰越利益剰余金	△2,314,367
		(うち当期純利益)	(△3,280,340)
		純資産の部計	68,185,633
資産の部計	88,162,074	負債・純資産の部計	88,162,074

損 益 計 算 書

(単位：円)

自 平成29年 4月 1日

株式会社 シルク温泉やまびこ

至 平成30年 3月31日

科 目	金	額
【売 上 高】		
宿 泊 売 上 高	199,492,429	
売 店 売 上	51,182,619	
食 堂 売 上	7,843,375	
温 泉 売 上	73,297,356	
自 然 の 郷 売 上	7,413,300	
フ ィ ー ル ド 売 上	236,660	
業 務 委 託 売 上	6,583,895	
自 販 機 売 上	3,806,652	349,856,286
【売 上 原 価】		
期 首 棚 卸 高	1,516,310	
仕 入 高	124,764,219	
材 料 仕 入	2,910,751	
飲 料 仕 入	6,600,663	
合 計	135,791,943	
期 末 棚 卸 高	1,334,936	134,457,007
売 上 総 利 益		215,399,279
【販売費及び一般管理費】		224,312,430
営 業 利 益		Δ8,913,151
【営 業 外 収 益】		
受 取 利 息	5,236	
雑 収 入	5,839,987	5,845,223
経 常 利 益		Δ3,067,928
税引前当期純利益		Δ3,067,928
法人税等充当額		212,412
当 期 純 利 益		Δ3,280,340

販売費・一般管理費内訳書

(単位：円)

自 平成29年 4月 1日

株式会社 シルク温泉やまびこ

至 平成30年 3月31日

科 目	金 額
役員報酬	3,264,000
給料手当	70,627,550
法定福利費	10,505,752
福利厚生費	2,293,610
シルバー委託費	7,927,854
広告宣伝費	6,736,448
運賃	112,054
サービス費	1,512,157
燃料費	17,558,935
衛生費	17,088,098
リース料	133,920
外注費	9,523,467
水道光熱費	28,611,424
事務費	1,903,136
消耗品費	4,075,542
地代家賃	756,000
支払保険料	1,156,132
修繕費	13,643,424
租税公課	8,516,550
減価償却費	1,194,004
一括償却資産償却額	565,416
接待交際費	695,684
旅費交通費	352,768
通信費	1,985,176
支払手数料	8,014,689
貸借料	3,392,591
諸会費	467,637
購読費	269,087
雑費	1,429,325
合 計	224,312,430

株主資本等変動計算書

株式会社 シルク温泉やまびこ

自 平成29年 4月 1日
至 平成30年 3月31日

(単位:円)

	株 本		資 本			株 主 資 本		新 株 予 約 権	純 資 産 合 計
	資 本 金	資 本 利 益 準 備 金	資 本 利 益 準 備 金	資 本 利 益 準 備 金	利 益 準 備 金	株 主 資 本 計	評 価 ・ 換 算 差 額 等 合 計		
	資 本 金	資 本 利 益 準 備 金	資 本 利 益 準 備 金	資 本 利 益 準 備 金	利 益 準 備 金	株 主 資 本 計	評 価 ・ 換 算 差 額 等 合 計		
当期首残高	50,000,000				12,500,000	71,465,973		71,465,973	
当期変動額									
当期純利益						△3,280,340		△3,280,340	
当期変動額合計						△3,280,340		△3,280,340	
当期末残高	50,000,000				12,500,000	68,185,633		68,185,633	

	利 益 準 備 金		株 主 資 本		株 主 資 本 等	
	利 益 準 備 金	利 益 準 備 金	資 本 利 益 準 備 金	資 本 利 益 準 備 金	株 主 資 本 計	純 資 産 合 計
	利 益 準 備 金	利 益 準 備 金	資 本 利 益 準 備 金	資 本 利 益 準 備 金	株 主 資 本 計	純 資 産 合 計
当期首残高	12,500,000				21,465,973	
当期変動額						
剰余金の内訳科目間の振替						
当期純利益					△3,280,340	
当期変動額合計					△3,280,340	
当期末残高	12,500,000				18,185,633	

個 別 注 記 表

自 平成29年 4月 1日
至 平成30年 3月31日

株式会社 シルク温泉やまびこ

この計算書類は、「中小企業の会計に関する基本要領」によって作成している。

1. 重要な会計方針に係る事項に関する注記

資産の評価基準及び評価方法

たな卸資産の評価基準及び評価方法

原材料・商品 …………… 最終仕入原価法による原価法

固定資産の減価償却の方法

有形固定資産 …… 平成10年4月1日以後に取得した建物及び平成28年4月1日以後
に取得した建物付属設備・構築物は定額法、
それ以外は定率法

無形固定資産 …… 定額法

収益及び費用の計上基準

原則として収益は実現主義により、費用は発生主義により計上している。

その他計算書類の作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理 …………… 税込方式で計上している。

2. 貸借対照表に関する注記

固定資産から直接控除した減価償却累計額の合計額 …… 27,499,055 円

3. 株主資本等変動計算書に関する注記

①当事業年度末日における発行済株式の数 …………… 1,000 株

②当事業年度末日における自己株式の数 …………… 0 株

③当事業年度末日に行う剰余金の処分に関する事項

平成30年6月8日開催予定の定時株主総会において決議を予定している。

別途積立金の取崩額 …………… 3,000,000 円

次期繰越利益剰余金 …………… 685,633 円

4. 1株当たり情報に関する注記

1株当たりの純資産額 …………… 68,185 円 63 銭

1株当たりの当期純利益金 …………… △3,280 円 34 銭

監査報告

私監査役は、平成 29 年 4 月 1 日から平成 30 年 3 月 31 日までの
第 14 期事業年度の貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、個別注記表、
事業報告および付属明細書を監査しました結果、適法かつ正確であることを認めます。

平成 30 年 5 月 15 日

監査役 小林 辰 美

監査役 柴 田 誠 一

第15期事業計画案及び予定損益計画案

1. 事業計画案

ホテルシルク温泉やまびこの基本方針「ほっこりとしたふれあい」を念頭におき、人、街、会社が元気になるように、社員のモチベーションを向上させ、いつも笑顔でお客様に喜んでいただける接客をしてまいります。

予算計画

総売上	358,810千円	(前年実績	349,856千円、	8,954千円増)
営業利益	1,040千円	(前年実績	△8,913千円、	9,953千円増)
経常利益	6,046千円	(前年実績	△3,068千円、	9,114千円増)

今期の最重要施策

- 1 温泉の来客数を上げるため、関西圏の会社と割引契約をすすめ、また旅行者が集まりやすい場所への割引券の設置をしてまいります。
- 2 お昼の会食組数を上げるため、メニューチラシを作成し近隣の営業を強化してまいります。また旅行会社用のチラシを作成し団体の営業を強化してまいります。

今期の具体的な取り組み

- 1 宿泊では、年間の企画を考え早めの宣伝活動をし、1室でも多く受入れができるよう取り組んでまいります。また季節商品の販売をしてまいります。
- 2 売店では、宿泊者の方へ毎週末お試し企画を実施し増収に努めてまいります。また管理システム導入によりABC分析をし商品の入替をしてまいります。
- 3 温泉では、新たな客層をねらい関西圏のバイク部品ショップとの契約をしてまいります。また旅行者が集まりやすい場所への割引券の設置をしてまいります。
- 4 費用面では、前期から続けています広告及び協賛経費の削減、サービス費の見直しを続けてまいります。

年々入浴者数の減少が懸念されますが、役員、社員一丸となり早めの企画推進に取り組んでまいります。

株主様をはじめ、皆様方の格別のご支援を賜りますよう心からお願い申し上げます。

2. 予定損益計画案

予 定 損 益 計 算 書

株式会社 シルク温泉やまびこ

自 平成30年 4月 1日
至 平成31年 3月31日

科 目		金 額	
【経常利益の部】 (営業損益の部)			千円
【売上高】			
売上高		358,810	
			358,810
【売上原価】			
期首棚卸高		1,340	
仕入高		139,430	
合計		140,770	
期末棚卸高		1,340	139,430
	売上総利益		219,380
【販売費及び一般管理費】			218,340
	営業利益		1,040
(営業外損益の部)			
【営業外収益】			
受取利息		6	
雑収入		5,000	5,006
	経常利益		6,046

販売費及び一般管理費内訳書

自 平成30年 4月 1日
至 平成31年 3月 31日

科 目				金 額
				千円
役	員	報	酬	3,270
給	料	手	当	68,500
法	定	福	利	10,500
福	利	厚	生	2,500
シ	ル	一	委	8,040
広	バ	宣	託	
運	告	伝	費	7,200
サ	一	ス	賃	160
燃		ビ	費	1,600
衛		料	費	20,290
リ		生	費	15,600
外		ス	料	150
水		注	費	9,000
会	道	光	費	27,060
事	議	研	費	60
消		務	費	2,080
支	耗	品	費	4,200
修	払	保	料	1,240
租		繕	費	9,180
減	税	公	課	9,000
接	価	却	費	960
旅	待	交	費	720
通	費	交	費	300
支		信	費	2,000
賃	払	手	料	8,400
諸		借	料	3,480
購		会	費	440
地		読	費	300
雑	代	家	賃	760
合			費	1,350
			計	218,340

